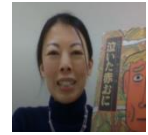


【A】保育実践のマインド&スキルズ編

【第1回】絵本と実践



鎌倉女子大学短期大学部 講師 関川満美
鎌倉女子大学短期大学部 准教授 幸喜健

【講座の概要】

絵本との出会いは子どもたちにとってたくさんの言葉や文字に触れるきっかけであり、その内容を通じて様々な知識や技術、価値観について学ぶ機会となります。また、1冊の絵本には1つの世界があり、子どもたちは色々な絵本との出会いを通して感性を豊かにし、想像力を育んでいきます。そうしたことから、絵本は保育環境を構成する上でも欠かせぬ重要な要素となっています。この講義では絵本の意義や子どもの年齢に応じた絵本の選び方などについてお伝えしていきます。

1. 子どもに「絵本」を読むことの意味

乳幼児期の子どもに絵本を読むことには次のような意味があると考えられます。

- ①大好きな大人と過ごすひと時
- ②子どもにとって1つの経験
- ③豊かな感性や想像力が育まれる
- ④言葉の美しさや楽しさを知るきっかけ
- ⑤読書のはじまり

2. 乳児期に読んであげたい絵本

乳児期（0・1・2歳児）にどのような絵本を選んだらよいか具体的に絵本を紹介しながら解説します。

- ・毎日の生活に密着した絵本
- ・言葉の響きやリズムを楽しむ絵本
- ・読み手と一緒に楽しむ絵本
- ・簡単なストーリーのある絵本

また、乳児への絵本の読み聞かせで聞かれるよくある疑問についてもお伝えします。

3. 幼児期に読んであげたい絵本

幼児期（3・4・5歳児）にどのような絵本を選んだらよいか具体的に絵本を紹介しながら解説します。

想像力や感情が豊かになる、周囲の環境への関心や知識欲が一層高まる幼児期において求められる、絵本の役割について考えていきましょう。
